
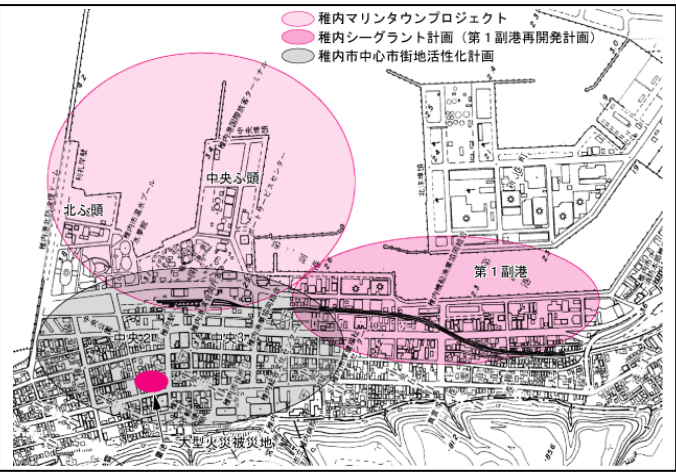



政務調査研究視察 報告書

平成19年 7月 30日提出

視 察 日	平成19年 7月 26日 (木)
視 察 先	稚内市
視 察 内 容	都市再生プロジェクトについて
視 察 者	野村康治 稲垣良美 山本雅宏 蜂須賀喜久好 山崎憲伸 園山康男 計 6名
稚 内 市	<p><都市再生プロジェクトについて></p> <p>稚内市の概要 人口 40,868人 面積 760.80km² 世帯数 19,115世帯</p> <p>事業概要 現在、稚内市では、中央地区や臨港地区を中心とした再開発計画が進められている。</p> <p>「稚内マリンタウンプロジェクト」「稚内シーグランド計画(第一副港再開発計画)」、そして「稚内中心市街地活性化基本計画」この三つの計画をリンクさせて、総合的に市街地の活性化を進めているのが『稚内市市街地総合再生プロジェクト』である。</p> <p>このプロジェクトを推進するため、稚内市では、平成15年度、稚内市市街地総合再生計画、平成16年度、稚内市中心市街地活性化基本計画を策定し、また平成14年度に策定された稚内市市街地総合再生ビジョンを基本に、国の「全国都市再生のための緊急措置」においてモデル事業として採択を受けた「都市観光の推進」に向けた市街地整備、活性化方策、推進システムなどについての方針を加えて、行政、市民、企業が共有するものとして「稚内市都市再生ビジョン」を策定し、これらの計画を基に事業を推進している。</p>  
	<p>〔感想・岡崎市への反映〕</p> <p>稚内市においては市の中心として発展し、市民生活を支えてきた中央地区が、南地区への人口流出等の影響から、市街地の空洞化が進行し、かつての「マチ」の賑わいをうしないつつある状況であり、こうした状況を打破するために、稚内市では「稚内市都市再生ビジョン」を策定して、総額120億の大型プロジェクトを組み、市街地の再生に向け取り組んでいる。市の規模は違うが岡崎市の中心市街地も同様の状況にあり、稚内市の取り組みを参考にすべく視察いたしました。</p> <p>稚内市は昭和24年日本最北端の市として市制施行して、漁業のまち、また国防上における北辺の要衝として栄えたが、昭和52年の漁業専管水域200カイリ宣言、昭和61年の日ソ漁業交渉による漁獲割当の激減や、冷戦終了に伴う自衛隊基地の縮小、炭鉱の廃止に伴うJR線2路線中1路線の廃止などで昭和39年の5万7千人をピークに人口が激減し、平成18年度は4万1千人まで落ち込み、現在もなお年間500人減っているとのコトである。</p> 

漁業の水揚げも最盛期の300億から100億になり、小売業も毎年2割減という厳しい状況が続いており、この状況を打破するために3つのプロジェクトが進められてきた。

これらのプロジェクトは港を中心とした「マリンタウンプロジェクト」と駅と商店街を中心とした「市街地再開発事業」と地場産品の振興と観光拠点形成を目的とした「シーブランド計画」の3つであるが、これらのプロジェクトは関係省庁も違うこともあり、もともとそれぞれに独立した計画であったが、中心市街地のより魅力的な再生を目指し、各プロジェクトを関連付けて策定された計画が「稚内市都市再生ビジョン」であり、

基本方針を

- 1、「マチ」と「みなと」を結ぶ魅力的な都市軸の形成
- 2、稚内駅周辺拠点の形成
- 3、景観・バリアフリーネットワークの形成
- 4、快適な「まちなか居住」の推進
- 5、日ロ交流による都市観光の推進

とした、この計画の特徴は国、道の補助金と民間の力をうまく活用しているところにある。

例えば駅周辺再開発事業においては事業費約40億円のうち国、道からの補助金が約15.5億で民間から約15億また、駅舎にJRが4.5億出資しており、市の負担金は4.7億である。また、シーブランド計画の中の第一副港再開発では事業費約23.5億の内14.8億が民間からの出資である。

その他さまざまな国及び道の補助制度をうまく活用している。

それを成しえているものは、なんと言ってもそれぞれの関係省庁及び、市の関係各課の連携にあり、この計画のために市は都市再生対策課を立ち上げており、この課を立ち上げるための各課との折衝及び連携に相当な労力を要したとのことであり、また、担当課長はたまたま運が良かったと言っておられたが、やはりしっかりしたアンテナを張りよく国の補助金制度を調べ上げている成果であると感じました。

岡崎市においても各種大型プロジェクトにおいて、各課の連携を密にしたムダのない計画と補助金制度の効率的な利用が必要であり稚内市の取り組みは大いに参考になるものと感じました。

このプロジェクトは現在約60%が完了しておりますが、駅舎及び駅前周辺の整備がまだであり22年度に完了予定であるとのことです。22年度以降にもう一度訪れ、プロジェクトの効果を確かめる必要性を感じております。